

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	・年間読書冊数の増加 ・授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の【授業満足度】や、学校教育自己診断における【カリキュラム満足度】などの向上
計画名	さやまアクティブ・ライブラリ ～読書活動の推進が、「狭山生を、自ら学び行動する生徒」へと育成する～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 さらなる学力の向上及び進路の保証</p> <p>(1) 生徒が主体的に学べる充実した授業の実現に取り組む。</p> <p>(2) 個々の進路希望を実現する新カリキュラムによる学習指導を進め、家庭学習指導、個別指導の充実を図ることにより、進路の保証に結びつける。</p> <p>2 キャリア教育のための環境づくり</p> <p>(1) 自立・自律した人間として、将来の生き方を考えることができるプログラムを展開する。 エ 読書活動を推進する。</p>
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本を身近なものとして、読書活動を習慣づける。 ・読書活動を本校の教育活動の中心であるアクティブラーニングと接続させ、課題を主体的に解決する力をいっそう向上させる。 ・ICTの活用によるデジタル情報の送受信は言うまでもなく、読書活動を通じてアナログな資料批判の力をつけることによって、どのような場面でも自分の意見を持ち、説得力のある自己表現を可能とする。 ・上記の取り組みにより、(1)平成27年度に比して平成30年度には学校教育自己診断における生徒の【授業満足度】を75%に、【カリキュラム満足度】の75%超えをめざす。(2)授業(総合学習含む)での学校図書館の利用率を上げる。(3)図書資料の年間貸出冊数を2900冊以上に(平成26年度879冊、27年度1451冊)。
整備した 設備・物品(数量)	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックトラック(30台/各教室及び図書室) ・大判プリンター(1台/司書室) ・調べ学習に使える一次資料の購入 ・推薦図書ブックレット発行(1000部)
取組みの 主担・実施者	<p>取組みの主担：さやまアクティブ・ライブラリチーム(略称：sal 継続的な進化を象徴する)</p> <p>取組みの実施者：チームさやま(狭山高校全教職員)</p> <p>協力：大阪府立中央図書館、大阪狭山市立図書館</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員と教職員が高校生に読ませたい本を推薦し、ブックトラックを各クラスに配置することで、本と出会うきっかけ作りと読書の習慣を作る。 ・図書資料を活用した効果的な能動学習をすべての教科で展開できるよう、校内研修を充実する。 ・特別活動の時間を活用し、資料を批判的に検討する方法を習得、協同的な学びの場において自ら考える力の育成を図る。 ・マイメモリー(読書活動の記録冊子)を活用して、生徒の読書活動を評価する(国語科)。英語の多読を推進する。(英語科)。 ・大阪狭山市立図書館と連携し、POPの作成や図書資料選定の方法を学び、キャリア意識を醸成する。 ・ビブリオバトルを2年生で実施し、学外で行われる大会へも参加する。あわせて百人一首大会を実施する ・学習の成果物を大判プリンタで印刷し、一定期間掲示することによって生徒や保護者、地域に紹介する。 ・推薦本をブックレットとして発行する。
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間貸出冊数1750冊(昨年1574冊) ・授業アンケート：「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている」「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」を昨年度以上に(昨年度平均3.12)。 ・学校教育自己診断の結果、授業満足度を昨年度以上に(作年度69.9%)。
自己評価	<p>※(記号説明)大きく上回った(◎)、上回った(○)、達成できず(△)、実施できず(×)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックトラックを購入し、教室、職員室、保健室等に設置した。60～80冊の図書資料を配置したことで、生徒と図書室との距離は縮まった。また、教職員が紹介する54冊を中心に96冊に及び推奨図書をブックレットとしてまとめ、全生徒に配付した。ただし、図書資料が身近になったことがかえって図書室に向かなくなるといふ意識となり、貸出冊数の伸びに繋がらなかった(960冊)(△)。昨年度の貸出冊数が例年より突出して多かったこともあるが、今後の課題としたい。 ・教員に向けて調べ学習の研修を中央図書館司書を講師として実施し、図書資料とICTを連携させたレファレンスの方法を学んだ。あわせて、調べ学習をする上で、一次資料となる年鑑・白書類を購入し、図書室を活用した授業の実施に備えた。授業アンケートは若干の上昇があった(平均3.16)(○)。 ・教員の読書活動への意識の高まりと授業改革への努力もあり、学校教育自己診断の授業満足度については予想以上に上昇した(77.6%)(◎)。上昇の理由を検討するとともに、この水準を維持していきたい。 ・また、ビブリオバトル普及委員会委員を招いて職員研修を行った。ビブリオバトル大会を学校行事に組入れ、読書活動をより身近なものとすることができた。府のビブリオバトル大会で入賞したことも、生徒の自信に繋がったといえる。これらの際、大型プリンターを用い校内掲示用のポスターを作成し、周知徹底を図った。
次年度に向けて	<p>ブックトラックの設置も生徒に認知され、休み時間等の利用を推進すると同時に、貸出し数の増加につながるような工夫を継続的に行っていく。また、本校で実践しているアクティブ・ラーニングと連動して、調べ学習による自主的な学びを学習習慣をつけさせると共に思考力・コミュニケーション力の強化につながる授業改善にも組織的にも取り組みたい。ビブリオバトルは本校で定着しているが、読みの深化を促すと同時に、新たな本との出会いの場として提供していきたい。本を介して学びの質を上げるべく教職員が一体となり取り組む。</p>